

あおり運転の現状

22211045 今関陸斗 22211055 内山義陽
22211096 小幡弥寸敏 22211317 平山翔流

1. はじめに

2018年頃からあおり運転が増えてきている。あおり運転とは、前方の車との車間距離を詰めたり、周囲の車を威嚇、挑発したりする危険な運転を指す。

本研究では、なぜあおり運転が起こるのか、その原因や、現状や推移、対策方法を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

次のウェブサイトからあおり運転に関するデータ等を参考にしてみた。

初めに警視庁から、あおり運転の摘発数や基本情報を参考にした。

続いて、チューリッヒ保険からあおり運転をされたことのある人の傾向やなぜ煽り運転が起きてしまうのかについてを参考にした。

そして、PRTIMESではあおり運転をされたしまった際の対策方法や被害にあわないようにするための方法を参考にした。

3. 結果と分析

まず、あおり運転が起こってしまう原因として、追い越しをされた、スピードが遅かった、車線変更をしたなどの煽り運転が起きるきっかけには、進路変更、車間距離に関する行為が多いことが分かる。

次に、約2人に1人があおり運転の被害にあっている。2017年から2018年にかけて、摘発件数は約2倍になっている。2019年が最も多く、2021年は前年の半分ほどに減少している。それと同時にドライブレコーダーの搭載率も年々増加しており、あおり運転の被害を抑制している。

さらに、もし、運転中におおられてしまったらどうすればいいのか。まず、車間距離をつめてくる後続車を発見したら、車線変更してなるべく道を譲ること。そして、どのような行動をとられても危険を回避できるだけ車間距離を開けておくことが大切になる。あおり運転で大きな被害を受けている事案の多くは、クルマを停車させて車外に出たときに発生している。しっかりと、ドアを

ロックして車内に留まり、携帯電話で110番通報するのが基本であるとされている。

4. 結論

あおり運転は私たちの道路交通環境において深刻な問題である。しかし、個人の意識改革、教育と啓発活動によって解決することができる。私たち一人ひとりが安全な運転と他者への思いやりを持ち、共により良い道路環境を築いていくことが心かげることが重要である。

参考文献

1. ソニー損保保険株式会社「2022年全国カーライフ実態調査」ソニー損害保険株式会社HP(2022年07月28日)

https://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2022/07/20220728_01.html (参照日:2023年7月10日)

2. チューリッヒ保険会社「全国のドライバーに『2022年あおり運転実態調』を実施」チューリッヒ保険会社HP(2022年7月14日)

https://www.zurich.co.jp/-/media/jpz/zrh/pdf/pr/2022/NewsRelease_20220714_ZurichInsuranceCompanyLtd.pdf?rev=681c4e6e813546c1b8eddf8945f03d03

(参照日:2023年7月14日)

3. 警察庁「危険！『あおり運転』はやめましょう」警察庁HP

<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/anken/aori> (参照日:2023年7月10日)